

令和 7 年 第 4 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 7 年 4 月 24 日（木） 午後 2 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後 2 時 00 分

6 令和 7 年第 3 回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
林委員、片倉委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告

報告第 4 号 令和 7 年度町立小中学校児童生徒数について

教育総務課長より説明。

鈴木教育長	全児童生徒数 1884 名で昨年度より 37 名の減となったが、これでも角田市より 300 人多く、白石市とあまり変わらなくなっている。
丹羽委員	若い世代が多いということでありがたいこと。
鈴木教育長	柴田町には少し及ばないが、各自治体で減少傾向にある中、30 数人の減というのは微減と考えて良い。 児童数については急激な減少には至ってないが、クラス数と特別支援学級が増えている。 国の方針で 35 人学級が小学校 6 年生までになったため、児童生徒数は減っても学級数はあまり変わらない状況。 また、国では今後、中学校も 35 人学級に向けて標準法の改正を行うということなので、それほど変わらない状況がもう少し続くのではないかと。 学級数は、特別支援学級をどこに置くかというのが本当に難しい問題になってきている。

丹 羽 委 員	特別支援学級は他の市町村もやっぱり増えているのか？
鈴木教育長	多分増えている。
丹 羽 委 員	どういう理由なのか？
鈴木教育長	特別支援学級に昔も入るべき、該当するような子供がいたと思うが、今は保護者のかたの特別委員支援教育に対する理解が深まっており、そういう教室で個性とか、あるいは自分のペースに合った学習とか、そういうことで伸ばしていけるという認識を持つ保護者のかたが多くなったからではないかと考えている。

(2) 専決事務報告 なし

(3) 議 事

議案第 17 号 令和 7 年度大河原町教育重点施策について

鈴木教育長	(委員全員に諮って) 可決する。
一 盃 森 委 員	6 ページ 地域ごとの安全の集いについて、区長さん始め、行政担当や役員のかたが顔合わせをする際にぜひ学校の先生方も出られたらどうか。先生方も毎年異動で変わるので、安全担当の先生と地区の担当の方との連携をとられるようにご配慮いただくとよろしいのではないかと考えていただきたい。
櫻田教育総務課長	おっしゃる通り、安全担当の先生と電話だけでなく、できるだけ直接会って話しができるように働きかけていくようにしたい。

議案第 18 号 大河原町社会教育委員の委嘱について

鈴木教育長	(委員全員に諮って) 可決する。
-------	------------------

議案第 19 号 大河原町文化財保護委員の委嘱について

鈴木教育長	(委員全員に諮って) 可決する。
-------	------------------

議案第 20 号 大河原町文化財保護協力員の委嘱について

鈴木教育長	(委員全員に諮って) 可決する。
-------	------------------

8 その他

(1) 教育長報告①

1 祝 新たな体制でスタート

新たに來られた、大河原小学校の高橋秀夫校長先生、金ヶ瀬小学校の半澤圭校長先生、大河原南小学校の成田智哉校長先生はじめ先生方について心から歓迎申し上げます。

新たな体制で若い先生方の持つ可能性を信じて学校運営を行っていただきたい。

2 「未来へ」

(1) よみうり寸評（読売新聞社 R7. 3. 12）

(2) 「未来へ」（谷川俊太郎）

よみうり寸評 5 ページの朝刊（R7. 3. 12）に、震災で亡くなった母親や父親に想いを馳せる子供が苦しんでこれまで生きてきて、その苦しみ抜いた歳月が宝なんだということが書いてあった。

この最後に谷川俊太郎氏の未来へという詩が載っているが、「誰もきみに未来を送ることはできない。何故ならきみが未来だから」というような一文があってそれをどう解釈したらいいんでしょうかと質問している。すると谷川さんは人それぞれが感じたままでもいいんですよというような回答をしていた。そういう意味で、この未来へという詩の解釈も、人それぞれあるのだろうと思う。

3 「ナナメの関係」居場所作り（今村久美）

ナナメの関係ということで、今村久美さんを紹介。（資料 7. 8 ページ）

今村氏は女川町が津波で 75～80%の町が流された後に、女川町へ行って、当時の遠藤教育長に無料の塾をやりたいと話したところ、遠藤教育長は、あなたが信じることが、この先の正解にきつとなるから、思い切ってやってみてくださいという言葉をいただいたと、そういうことを著書で記している。

遠藤教育長も当時町があれほどの被害を受けたのに、始業式を真っ先に県内で一番目にやろうとしたり、未来に繋がる子供たちが町民の元気の源と考えておられた。

今村氏が言っているナナメの関係について、先生と子どもはタテの関係、子どもと子どもはヨコの関係で、ナナメの関係とは社会に出ている人達と子どもの関係である。

4 「学びのたより」（石井順治）

(1) つながりと学び合う学級をつくる 4 月

(2) 若い教師が育つ学校

11 月 21 日に大河原小学校に石井順治先生が来てくださり、全学級通覧と研究授業、町内全教員を対象としたご講演をいただくことになっており、大変楽しみにしている。

5 全国学力・学習状況調査に向けて

6 子どもの言葉を要約して板書することの嘘（佐々木昭弘）

筑波大附属小学校の校長先生の佐々木晃弘先生の著書『正解のない「問い」に、納得できる「答え」を見つけられる子どもを育てる』より紹介。

「視点転換」が述べられており、全国学力テストにも沢山の問題として出ている。

自分の考えだけでなく、他の人に寄り添った考え方、つまり「協働」での学びはそこ

にあると考えられる。

7 校長のリフレクション ―「反発」の原因は校長かも（玉置崇）

玉置崇先生が新任の校長として赴任した際に、ある教師より反発を受けた。後日その教師が熱心に教材づくりに取り組んでいる姿を見て、自分が先生方一人一人の良さをきちんと見ていない事に気づき、情けないと反省をし、直接謝罪をした。そこから部下の信頼を得ることができたもの。

8 授業記録（大河原小学校 4 年 4 組 菅原海）

今年 1 月に行われた大河原小学校自主公開研究会での菅原海教諭による公開授業について、後日録画したビデオを文字に起こしたもの。

内容について「対話的学び」の典型といえる素晴らしい授業だったと感じ、全ての先生方に読んでいただきたい授業記録である。

教育長報告②

1 PEP TALK [ペップトーク]

(1) 柴田農林高校閉校記念講演会「言葉の力、無限大」(岩崎^{よしずみ}由純)

(2) WBC 決勝での大谷翔平選手の声出し

柴田農林高校閉校記念講演会にて岩崎氏が講演した資料の一部について紹介。

ペップトークとは、選手、生徒、部下などを励ますのに、監督やコーチなど指導者が試合前（本番前）に使う「激励のショートスピーチ」「魂を揺さぶるスピーチ」のこと。

WBC の決勝戦前に行った大谷翔平選手のショートスピーチを紹介。

「懂れるのをやめましょう」（禁止令）→「トップになるために来た」（目的）→「勝つことだけを考えていきましょう」（行動）→「さあ、行こう」（激励）と選手たちの魂を揺さぶるスピーチとなっている。先生方にも子ども達の魂を揺さぶるショートスピーチをぜひ実践してもらいたい。

2 「学びのたより」（石井順治）

(1) 「教えることと学ぶこと」

(2) 「言葉にならない子どもの声を聴く」

石井先生の学びのたよりの続きとなるもの。ここでも授業作りで非常に大事なことを載せている。

10. 11 ページでは室生犀星の「靴下」という詩であり、この授業の実践記録を聞いて本当に涙が出てきた。このような授業を通じて子どもの心が開いていく、育っていくものであると強く感じた。

13 ページからは「言葉にならない子どもの声を聞く」だが、話をするのが苦手な子がどのように心を開いていくかを「手ぶくろを買いに」という物語を題材とした授業を通して書いているもの。こういう人間の心の成長に繋がっていくというような授業をしてもらいたい。

3 「問題解決学習という名の嘘」(佐々木昭弘)

4 算数科における適用と習熟

5 「日本列島はすごい」(伊藤孝)

著者の伊藤先生については、茨城大学の先生で古川出身である。

地学の専門的な本とは違い、奥の細道や理科の化学実験などを交えて書かれていて非常に興味深い内容となっている。

地学はとても面白い学問だが高校生には人気がなく、あまり履修されていない。このような本はとても良い教材なのでおすすめしたい。

6 「保護者アンケート 私はこれで学校にモヤモヤしました」

7 公立学校とカスハラ (小野田正利)

クレームが全て悪いものではなく、改善にも繋がっていく。先生方も厄介な親というようなレッテルを貼ったりすると痛い目に遭うよ、こじらせるよ、というような内容となっている。

また、接し方を工夫すれば普通の対話が可能になる人なのか、あるいは何ともならない人なのか、それを判断しなくちゃならない。というようなことも述べられている。

8 その他

(1) 金メダリスト「ソフトボール教室」

(2) 英語で観光ガイド (桜まつり)

その他、写真記録で、68 ページは金メダリストによるソフトボール教室について紹介。2名の金メダリストが来て中学生に指導してくれた。とても貴重な経験だったと思う。

桜まつりでの英語で観光ガイドでは、14名の小・中学生が、インバウンドの外国人に対して英語で説明した後、「さくらさくら」を英語で歌った。テレビで紹介されたほか新聞にも掲載されたもの。

一 盃 森 委 員

今回教育長報告が2冊ということで大変ボリュームのある内容であった。

1冊目の大河原小学校自主公開研究会での菅原先生の公開授業について、授業後の検討会に冒頭だけ参加させていただいたが、そのときに菅原先生が今日の授業で良かったのは、3人グループで話し合いをした後、前に出てきて

発表してくれた子が、上位群の子どもではなく、中位ぐらいの子ども達であったのがとても良かったと話していて、なるほどと思った。

教育の仕事というのは、子供たち自身がその未来を作ってくとすれば、それをサポートをしながらお手伝いをしていくもの。

先日、大河原小学校の卒業式に出させていただいて、杉山校長先生の式辞の中で、夢に向かったの新しい旅の始まりですと、おっしゃった。杉山先生は、感謝の気持ちを持ち続けることを大事にしてください、というのを語り続けていてそれが大事なんだと感じた。

教育長もお話されましたけども、ぜひ各学校でいろいろ試して、具体的な形で、やってみればいいと思う。まねっこしてからスタートでいいのではないかと、それを大事にすればいいなって思うことが一つと、それから文字起こし等の機器を上手く活用しながら、各学校で授業研究を行うときに取り入れていければ良いのではないかと。

丹 羽 委 員

教育長報告①で、まずぱっと読んで、未来へっていうので止まっちゃったんです。これを読んだとき、誰も君に未来を送ることはできないと言うけれども、私達は円の中でしか生きられないんで、社会の中にしか、だからその中で自分の未来ができてくるんだと思うんで、どういうふうに受け止めたらいいんだろうかなって思ったときに、その未来っていうのは自分の未来ですから自分のことなんですよ。

お釈迦様が悟りを開いたときの言葉があるんですが、訳すと、君の未来っていうのは、要するに輝いた未来であってほしいという意味もあるし、自分だけの未来なんだよ、あなたは尊いんだよ、かけがえのないんだよ存在なんだよっていろいろあるけれども苦しいこともつらいこともあるけれども自分らしく生きていき、周りの人と仲良く生きていけっていうそういうことを暗示しているのかなという感じもしました。

林 委 員

3つお話しします。一つ目は石井順治先生の資料、自分が若い頃にこういうものに出会えたらバイブルのようになっていただろうなと感じています。若い教員のかたにとってバイブルのような資料であると感じました。

それで、子供の声なき声を聞くっていうふうなところで、子供の心を敏感に感じ取る力を伸ばすってことには多分経験年数とかそういうことはもちろんあるかもしれませんが、それ以上にやっぱりそういう目で、そういう気持ちで子供たちに日々誠実に向き合っていくことがやっぱりそういう力を伸ばしていける感性を磨いていけたらすごい先生が育っていくっていうふうに思いました。若い先生はそれだけで子どもにとって魅力的で懐いてくる強みを生かして、石井先生のような感性を磨いていけたらすごい先生が育っていくと感じました。

二つ目はそれと同時に、保護者と積極的に繋がるのが若い先生はちょっと苦手だと思うが、そこを恐れずに繋がってほしいなというふうに思いました。

三つ目は、教育長先生が起こされた記録、これは授業をした教師にとってすごく嬉しかったと思いますし、また学校にとってもすごく嬉しかっただろうなって思います。自分が精一杯していることに評価をもらえる。

しかも具体的にここがこういうところがよかったよというその教室でコメントが入っていて、それを手にしただけで、教職をずっと続けて行くことができるというか、エネルギーをもらえるというふうに思っとうらやましいと私は思いました。多分それは学校でもできると思います。

先週授業参観だったんですが、担任の先生が若い先生で、その後の懇談会に保護者が8人くらい残ったんですけど、やはりいろいろ言われて萎縮してるなと思って見ていました。慣れるまで先生も子どもも大変だと感じています。次は今村久美さんがおっしゃった地域のコミュニティの重要性について。

地域の繋がりがどんどん無くなってると自分自身感じています。

子ども会なんですが、コロナ禍あたりからイベントもどんどん縮小して、今は3月にある歓送迎会ぐらいしか私の地区はないのですが、歓送迎会も土日に行われることが多いと、お子さんの習い事だったりすると、もうほとんどみんな集まらなくてっていたので、今年はそれをなくして、夏休みの平日に夏祭りをしませんか？という話し合いになっています。

昔はいろいろとイベントがあったのですが、だんだんみんな参加なくなってって、前は総会やイベントの案内とかもプリントで班長さんが配っていたのが、それがコロナ禍でなかなか集まれないってことで全部LINEに変わって、LINEでこういうことがありましたとかいう事後報告みたいになってしまって、もうほとんど集まりもなくなりつつあります。

会長さんとか班長さんの負担はLINEによって減ったんですが、名簿や住宅地図の誰々さんが住んでるっていう情報も情報公開がされないので、安全パトロールの時に、黄色い旗とかを渡しに行きたいんですが、各家庭でもう今、自宅の電話がなくスマートフォン、携帯電話だけになっちゃうと知らない番号だったら出てくれないんですよね。

そうすると受け渡しや引き継ぎもなかなかうまくいかず、スムーズに子供会を進めていくのがだんだん大変な状況になっていると感じています。

さらに引っ越しで転居されたりとか、新たに転入されているご家庭があると思うんですけども、お子さんがいるっていうのも、学校から名簿が会長さんにしか渡されないの、新しい名簿が更新されず前のままになっているので、何とか対策をお願いできたらと思います。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

教育委員会人事異動について説明。

大河原町小・中学校 学校給食費無償化方針について説明。

令和7年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和7年5月16日（金）午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後4時00分

令和7年5月16日

署名委員

署名委員